

彩りの上州の山歩きはいかがでしょう

## 棒名 掃部ヶ岳・赤城 黒檜山

実施日 2016年10月22日(土)～23日(日)

天候 10/22 曇り 10/23 晴れ

リーダー 涌井 良明

参加者 涌井良明、山崎富美恵、小村井好枝、石附智江、宇野輝代 計5名

費用 JR8,820円(東京起算新幹線)

レンタカー@5,000円 宿泊7,000円

合計 20,820円(在来線16,940円)

タイム 10/22 高崎(8:00～15レンタカー)棒名湖畔P(9:15～30)登山口(9:40)硯岩(10:00～05)掃部ヶ岳(10:55～11:30軽食)杖ノ神峠(12:50)湖畔P(14:00～15)赤城大沼湖畔みやま山荘(15:20)泊

10/23 宿(7:45)ビジターセンターP(7:50～8:00)駒ヶ岳登山口(8:05)尾根(9:00)駒ヶ岳(9:20～25)黒檜山(10:15～25)北峰(10:30～11:00軽食)黒檜山登山口(12:25)赤城神社(12:45～13:00)覚満淵(13:15～13:45周回路散策)ビジターセンター(13:50～14:20)高崎駅(15:50)

秋の上州路二山のはしご登山である。せっかくなので、泊まりでゆったり時間をとって誰でも無理なく参加できる計画とした。参加いただいた皆さん、ありがとうございました。そこそこの紅葉や秋らしさ、また上州の山らしさも味わってもらえたのではないのでしょうか？

10/22 秋の上州、棒名山へと車を走らせる。棒名富士も見えるようになる

と、辺りの色付きも増してくる。情報通り紅葉は見頃のようなだ。



棒名湖畔西側の湖畔の宿公園近くの、広い市営Pからの周回が今日の行程だ。

吾妻荘の先の掃部ヶ岳登山口から、山道に。歩き易いハイキングといった道を登る。丁度見頃の色付きがアクセントとなって曇空ながらも快適だ。山腹の道を登り切ると尾根に出る、まず右へ硯岩に向かう。短い急登で硯岩だ、棒名富士、湖、周囲の山の展望台である。但し、高度感満点。



尾根分岐に戻り掃部ヶ岳を目指す。整備された道だがやがて親切が過ぎるが如く丸太の棧の階段道となる、段差は低いこともあるが地面部は抉れ丸太に乗っかると、



狭い段差に斜めに足を置くことになり、非常に歩きづらい階段である。

雨の下りなら足の置場に苦労しまくりだろう。樹間の木洩れ陽や朱・黄に癒やしが救いか。長い階段道の先を登り切って掃部ヶ岳に出る。眺望は先ほどの硯岩ほどではなく、またガス？モヤ？で遠望はないが棒名湖と辺りの山々が見えている。しばし軽食お茶休憩、さすがこの時期の週末、次々にハイ



カーが登ってくる。それ程広くない山頂も今日は賑やかである。



山頂から杏(スモン)ケ岳とある南西に下る道に入る。笹に覆われた道を下るが、明らかに先ほどまでとは違い人通りが極端に少ないと感じさせる道だ。小さいピークを超して行くが見事な紅葉を見せて下

り、ワイワイ楽しみつつ進む。雑木の茂った道の登降が続き、前方に天を向いた岩が顔を見せる。耳岩と言うらしい。登ってみると…それは良き眺めである、但し高所恐怖症のある人にはあまり勧められないかも(@\_@) 耳岩は



下を巻いてから、道は回り込むように杖ノ神の頭から杖ノ神峠へ急な尾根を一気に下って行く。峠道にあったのか？地蔵を見ると舗装林道になっている杖ノ神峠に下りて山道は終わった。林道を下り、湖畔の宿公園に寄り道してクルマに。

再び秋の上州路を赤城山へ移動する。緑の山麓からカーブを数える度に周囲の赤みが増していくのが分かる。先程の掃部ヶ岳を超す高さになると、既に葉を落とした木々も目立つようになる。赤城の高さが感じられた。3時過ぎに大沼湖畔の宿に着く。さぶっ！秋と言うより冬か？ 今宵の宿は良い意味で趣？のある建物で女子部は石油ストーブ暖房、一人部屋は自家暖房である。たっぷりの夕食～皆さんの自家

自慢？で盛り上がり明日を楽しみに寝床にもぐり込む。

明日は青空が期待できそうだッ！

10/23 8時前に宿を出て数分のビジターセンターにクルマを止める。

当初予定の地蔵岳は後にして、5分程歩いて駒ヶ岳登山口に。

10月の日曜で快晴、登山者も続々だ。今日の山も賑やかそう。登山口の標高は1350m程だが、既に葉を落とした木々も紅葉は少し遅かったかも



知れない。また、今朝は冷たい北西風が吹き抜けており寒さを感じる位である。道は良く

整備されているが、傾斜もきつくなると鉄階段も出てくる。登るにつれて大沼の湖面も小さく見えるようになる。大沼を囲むように連なるいわゆる外輪山の尾根(稜線)に登り着くと反対の東側の眺望が一気に開け、風も全くなくなり暖かい陽射しを浴びる。



陽がうれしいってもう冬かあ！

遙かにぼんやりとだが、富士山も見えている。明るい尾根道を登って小さな盛り上がりの駒ヶ岳に着く。足尾(阿蘇)方面の山並みも見えているが、山名はいまいち分からない、ザンネン。



駒ヶ岳から北に見えるへ黒檜山に向かう。赤城山の主峰だけあって本峰へはそれなり

のアルバイトとなりそうだ。

小さい登降と大ダルミの鞍部を過ぎて標高差200mを登る、さすがに一汗絞られて鳥居と大沼ルート分岐を過ぎると、駒ヶ岳から50分、黒檜山(△点のある南



峰)に着いた。広さもある頂は次々と登・下山する登山者が溢れた賑やか〜である。

取り敢えず写真を撮って、より眺望の良い北峰に行く。こちら風を避けた南側では三々五々ランチ休憩で賑やかである。なるほど三角点峰よりはるかに良い展望台で昨日の棒名山塊をはじめ、上州武尊、昨年訪



れた子持山、皇海山をはじめとする足尾の山並などが秋空と一体となっている。

我々も風を避けてティータイム。

南峰を超して、大沼めがけてほぼ直線的に付けられた大沼ルートを下る。が！なんと、登り登山者の多いこと、ほぼ間を開かずに連続している。そのためしばしば行き違い渋滞が発生して待つことになる。往復でも4時間程なので、日帰り登山の時間的にも丁度良いのだろうが、道は岩ゴロ混じりの急傾斜であり、決してお手軽な道ではない。



結局登山口までほぼ同じような道が続いた。



下るに連れて渋滞待ちも減り、猫岩の展望台を過ぎると傾斜も

緩み、大沼沿いの登山口に降りて、山道はオシマイ。

10分ほど歩いて、せっかくなので朱も鮮やかな赤城神社に詣でてから、VセンターPに戻った。地藏岳へ向かうか思案だが、取り敢えず覚満淵(中層湿原)周回路の散策となった。そのあとの地藏岳は予想通りと言うかやっぱりというか割愛になっちゃったあー(o^o)。



まっ、ゆったり登山、これも山登り、これはこれで楽しいものである。

1時間ほどのドライブで高崎駅へ戻って、今回の山行は解散となった。

皆さんラクしすぎでしたか？ 一応予定した二山に登って、天気にも恵まれて秋の雰囲気も味わえたので良しとして下さい。これに懲りずに機会があったらまたご一緒してください。

お疲れ様でした。

(記&写真・涌井 良明)

